

## 外環道路に関わる大気汚染・交通事故が増加傾向 — いま監視と対策が急務

### 幹線道路開通によるNO2濃度の変化

鈴木 一義（市川の空気を調べる会・国府台）

市川市内で、近年2本の幹線道路が開通しました。2016年11月の3.4.18号線、2018年6月の東京外環道路です。交通量は前者は約1.3～1.8万台/日、後者は約5万～9万台/日とされます。私たち「市川の空気を調べる会」の測定結果では、これら道路の開通により、前者は市川市のNO2濃度を3%、後者は12%上昇させました。本稿ではより影響の大きいと見なされる外環道路について、開通前後の変化を報告します。

**比較に用いた測定値**は、6月と12月のうち交通量の多い12月度の値を用い、開通前としては2015～2017年12月度、後としては2018～2019年12月度のそれぞれ定例測定日の平均値を比較しました。各年の測定値は自然条件等で大きく変動しますので、これを補正するために道路開通の影響を受け難いと想定される2局の行政測定局の測定値を用いました。

**市全体の平均濃度**は、前述のように開通により12%増加しましたが、うち住宅地は17%増加に対して沿道地の増加は0でした。これは通過車両数がまだ多くなく、道路の流れが比較的スムーズに動いていることが原因かもしれません。

**幹線道路の変化**は、市北部の4.6.4号線（通称梨街道）

が開通後に20%増加し、北部と南部を結ぶ道路は外環道路と共に3.4.18号線は17%増加しました。一方松戸街道は変化せず、これに接続する産業道路は並行道路に物流車を移し27%の大幅な減少となりました。

**市内を5地域に分けた地域別濃度の変化**は、外環道路の大量の交通量が流出入する南部（行徳地区）は汚染が28%も増加し、北東部（大野、大町等）は4.6.4号線の交通増により約20%増、北西部（矢切、中国分、国府台等）は新たな外環道の進入により約10%増となりました。市中央部の中北部と中南部は増減が相殺して変化は僅かでした。汚染の増減に地域的バラツキはありますが、市全体の濃度を12%も増加させる外環道路の汚染は、今後とも厳しく監視する必要があります。

### 交通事故は市川市内だけが増加

高柳 俊暢（市川市松戸市外環連合・真間）

千葉県警HPで、2019年の県内交通事故発生状況図が公開され、外環の開通で市川市北部の交通状況の悪化は一目歴然です。外環、3・4・18線の開通で14号への交通集中で中心部の交通事故の増加も非常に目立ちます。

広域比較を見ると市川市周辺の交通状況悪化はよくわかり、松戸市内では直接外環の影響をうける矢切地域とともに、国道6号の状況悪化がわかります。市川市南部地域でも湾岸道路周辺を中心に事故発生が増えています。ただし、外環開通で交通状況が改善したようにみえるのは外環の内側の市内北部に限られた範囲にすぎません。

（千葉県北西部の交通事故発生件数を2面に掲載）

## 風知草

▼千葉県市川市の新興住宅地で、中年サラリーマン夫婦が中学と小学生の子供を残して心中（1980年・毎日新聞）。夫婦は2年前にマイホームをやっと手にしたが、月収30万円、18万円ものローンに行きづまり自殺を図った。この町に起きた事件▼高度経済成長の真つただ中、人々は少し背伸びをしても生活の地歩をかためる夢を追った。その夢もちよつとしたつまづきで失意の底まで落ちていく。ローン破綻の走り、どこにも掴まるネットはなかった▼この年代、経済や生活の破綻ばかりではない。戦後35年、明るく平和で、暮らしやすい日本をめざして努力し築いた民主的諸成果を根底から破壊し、再び反動と軍事大国化の道を進もうとする勢力が台頭。同時に革新統一にもヒビが入ってきた▼こうした情勢下の80年「前途を憂うすべての人々の力を結集して革新勢力が統一されることを願い、ここに『革新懇話会市川』を結成」（結成アピール）した。この11月で40周年となる

▼思えば長い歳月、多くの逝去された先輩たちの思いを受け継いで歩んできた。紆余曲折、一進一退はあったが生活を守り、平和と民主主義を願う力は大きく前進、野党共闘の基盤は確実にできた。時あたかも、コロナ後の新しい日本を目指すとき、40年を足場に次の未来に向かって新しい運動へ走りだそう。夢多き21世紀の仕事だ。

（松下秀孝）